



【生涯学習課文化財保護担当】

今回は、茅ヶ崎市北部の行谷地域を中心とした自然と文化の香りが漂うコースを紹介します。

市北部は、尾根と谷戸が交互に続く丘陵地形（高座丘陵）が広がる、土と緑の豊かな里山の風情を残す一帯です。行谷地域はその南西部にあたります。

文教大学のバスロータリーを起点に終点は文教大学とし、谷戸から高台の尾根道を散策し、市街地では味わえない自然の起伏を体感できます。春は山林や田畑の緑、夏は鮮しぐれ、秋には木々の色づきなどをじっくりと楽しむことができ、自然にだけ込んだ神社仏閣や歴史遺産、そして新しい学舎への期待を抱かせる雰囲気をもったコースとなっています。

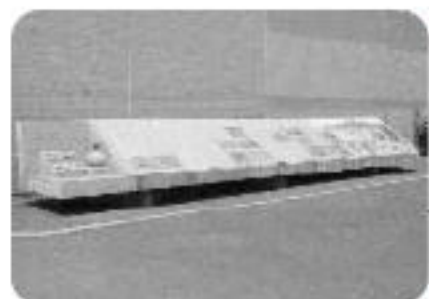


今回の発見！

行谷地域を歩く

⑤白久保A遺跡

縄文時代、弥生時代から江戸時代にわたる複合遺跡で、弥生時代の大規模集落のほか、円墳3基と横穴墓4基が発見されました。



⑥行谷遺跡

昭和58（1983）年に道路建設に伴い、発掘調査がされ、大量の土器や石器とともに縄文時代後期の竪穴住居跡群や※土坑墓が発見されました。尾根端では貝塚が発見されており、行谷貝塚として知られています。



⑦文教大学

昭和60（1985）年に湘南キャンパスとして開校した、市内唯一の大学です。

④金山神社

行谷の氏神様が祭られています。入口に並ぶ5基の両甲冑のうち、承応4（1655）年のものは背面金剛像を彫るタイプのもので、平成18年に県の重要文化財に指定されました。



③宝蔵寺

天正8（1578）年創建といわれる曹洞宗の寺院。山号は金峰山。明治6（1873）年に「時習学舎」という学校がこの寺に設けられ、小出地区の学校教育が始まりました。



②延命地藏尊

石膏形象で、路傍に祭られています。

※土坑墓…穴を掘って土葬したもの。日本では、縄文時代～弥生時代に多いお墓の形式。

